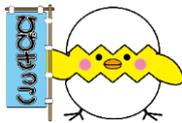


学校だより

ひびきが丘

学校目標「豊かな心とたくましい体をもち、自ら進んで学習、活動できる子どもの育成」



学力特集号
令和3年11月30日
北九州市立ひびきが丘小学校
校長 松本 拓士

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語	・正答率については、「書くこと」について全国平均正答率と同程度に近づいている。 ・「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の問題に課題が見られる。コロナ禍ではあるが、各教科の学習で、考えたことや調べたことを伝え合う活動を行う時間を保障し、目的に応じた構成を考えることや資料を用いて伝えることの経験を積ませたい。
算数	・正答率については、「図形」「測定」について全国平均正答率と同程度に近づいている。 ・「数と計算」と「変化と関係」、「データの活用」の問題に課題が見られる。確かな計算の技能を身に付けることや、数値の意味を事象と結び付けて考えることなどに計画的に取り組ませる必要がある。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・「国語科の学習は将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに対して、肯定的な回答をした児童が多い。「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対しても肯定的な回答が多く見られる。これらのことから、学習したことを生活の中で見直そうとしたり、生かそうとしたりする意識が感じられる。その一方で、「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか」や、算数科「授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」の問いでは、肯定的な回答が低い。日ごろの授業の中で、学習したことを活用して相手意識や目的意識をもち説明する活動の時間が重要と考える。 ・「地域の行事に参加している」や「朝食を毎日食べていますか」の問いに肯定的な回答を示した児童の割合が増えている。今後、さらに継続して、PTAや地域と連携しながら、児童・保護者に啓発するとともに、地域とのつながりの大切さを価値付けていく。 ・「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「起きていますか」の問いが全国平均に対して依然として低い傾向がある。今後、PTAと連携しながら、PTA理事会・学校(学級)通信、懇談会等で、児童・保護者に啓発していく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

全校では、各教科の学習において、自分の考えを書く活動や、伝え合う活動を行う時間を保障する。特に、まとめや振り返りを書き、伝え合う習慣が定着してきているので、継続していく。学年及び学級では、既習学習の定着の度合いを把握するため、学力定着サポートシステムを活用する。日々の学習や単元末テストなどを活用して、学級の課題を明確にとらえて繰り返し指導し、学力の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

日々の学級指導の中で、家庭生活習慣について意図的に指導していく。学級活動や学校行事の中で、とくに「日常生活や学習への適応」や「健康安全行事」と関連付けながら、継続的に繰り返し児童へ指導していく。学校(学級)通信や保健だより・PTAだより等を通して、学習習慣・生活習慣の成果と課題を保護者へ啓発していく。